

天野 敦雄 先生
迫田 賢二 先生
鈴木 泰二 先生
大城 鈴佳 歯科衛生士
橋本 貞充 先生

株式会社
ミロクメディカル
ラボラトリー
玉井 清子 氏

マイスターが考える

新時代の 歯科医療

～今、改めて学ぶべき歯周病治療の基礎～

開催日時 2024/

定員

2/23.fri 祝 200名

9:00-13:00

配信 ライブ配信のみ ※見逃し配信はございません。

お申込み ヨシダのホームページよりお申込みください。

ヨシダ



<https://www.yoshida-dental.co.jp>

スマホからはQRで簡単アクセス▶



お申込みから受講までの流れ



ヨシダホームページより
お申込み

※G-PLUSへの会員登録が必要です。



ご登録のアドレスへ
申込み完了メールが
届きます



開催日時になったら
PCや携帯からセミナー
視聴ページへアクセス

株式会社 **ヨシダ**

器材部(平山) TEL.03-3845-2931 (平日 10:00-17:30)

※受講の際はスピーカーではなく、ヘッドセットやイヤホンのご使用をお勧めします。

※通信不具合によりご参加・ご視聴いただけない場合の保証はできかねますので、予めご了承ください。

ご提供いただいた個人情報につきましては、弊社事業に関する情報、製品に関する情報の提供等、弊社インターネットホームページに掲載した個人情報保護方針「利用目的」の範囲内で利用させていただきます。

〈受講料〉*

歯科医師	: 5,000円(税込)	内訳: 受講料4546円(税別) + 消費税454円 10%対象
歯科衛生士	: 3,000円(税込)	内訳: 受講料2728円(税別) + 消費税272円 10%対象
コデンタルスタッフ	: 3,000円(税込)	同上

*サンプル代込 セミナー終了後 ご登録ご住所へお届けいたします。

講師は、あいうえお順になります。

歯周病のバイオフィルム診断



天野 敦雄 先生

大阪大学歯学研究科 予防歯科学講座教授

歯周病の発症原因は「バイオフィルムの攻撃力vs歯周組織の守備力」のバランス崩壊です。バイオフィルムの病原性は一定ではありません。ある時、バイオフィルムは豹変し高病原化します。歯周病の治療は、バイオフィルムの高病原性を取り除くことです。最新歯周病因論に基づいて、バイオフィルムの高病原化のメカニズムをお話します。続いて、バイオフィルム診断の重要性を解説致します。バイオフィルム診断とは、バイオフィルムの現状の病原性の把握とこれからの高病原化の予測です。そのために行うことは、①歯周組織検査、②歯周病細菌検査、③位相差顕微鏡観察です。検査結果に基づいた歯周治療・管理方法と、セルフケア用品についてお話させていただきます。

全身疾患と歯周治療

～ 歯科医科連携の重要性～



鈴木 泰二 先生

鈴木歯科医院 理事長

皆様も周知されているように全身疾患と歯科疾患は非常に繋がりがあります。ただ、周知はしているが医科と連携が取りづらいのが開業医の問題ではないでしょうか？今回は症例を通して当院の歯科医科連携の取り組みについて、皆様の歯科医科連携の初めの一歩となるようにお話ししたい。



大城 鈴佳 歯科衛生士

鈴木歯科医院 勤務

歯科衛生士3年目になり、歯周病患者を担当する中でモチベーションを保ちながら歯周基本治療を成功させる難しさを痛感しながら診療に取り組んでいます。その中で特に歯周病原細菌に着目し、基礎から自分なりに学び、奮闘している一症例を供覧いたします。

細菌検査の外注方法

歯周病原細菌の検出（リアルタイムPCR法）と検査依頼方法…悪玉菌5菌種とP.g菌線毛タイプング…



株式会社ミロクメディカルラボラトリー
玉井 清子 氏

代表取締役副会長・医学博士

臨床検査会社にて、歯周病原細菌DNAをリアルタイムPCR法にて測定しています。歯周病原細菌5菌種（P.g菌、T.d菌、T.f菌、T.i菌、A.a菌）のコピー数と、それらが総菌数に対して%であるかを報告しています。また、P.g菌が検出時には、P.gingivalisの線毛fimAタイプングも実施しています。検査法と検査依頼方法などを詳しく説明させていただきます。

半導体レーザーを用いた非外科的歯周治療

～ 術前・術後の管理を含めて～



迫田 賢二 先生

さな歯科クリニック 院長

近年、歯周治療に半導体レーザーを用いた臨床研究が世界中で報告されており、その多くが効果的であることを示しています。当医院では、全身疾患等なんらかの理由で歯周外科手術ができない患者さんに対して、半導体レーザーを用いた非外科的歯周治療を行っており、良好な治療効果が得られています。ただし、優れた治療効果を発揮する半導体レーザーですが、感染のコントロールなど基本的手技が確実にできていることが大前提です。歯周病予防に効果的とされる薬用歯磨きジェルであるHaBon PG STOPは、当院にとって歯周治療において欠かせないものの一つとなっています。本講演ではPG STOPを併用した術前・術後の管理を含め、半導体レーザーを用いた非外科的歯周治療について紹介させていただきます。

歯肉のこと、わかってあげていますか？

歯肉の構造を歯間乳頭からみると・・・



橋本 貞充 先生

東京歯科大学客員教授 生物学研究室

日々の臨床の中で歯周組織を語るとき、唇側や頬舌側の歯肉ばかりに目がいつてしまっていて、歯の間に隠された歯間乳頭部の歯肉には目が届かない。歯槽骨縁上の歯肉組織が歯面を覆う広さは、歯間乳頭部の隣接面だって負けていないはず。スティッピングや遊離歯肉に縁取られ、シャープに尖った歯間乳頭の形は、どうやってつくられるの？目も歯ブラシの毛先も届きにくい隠れた歯間乳頭では、炎症が起き易いの？それとも・・・もし炎症が起きたらどうなるの？どう治っていくの？退縮してしまった歯間乳頭は何が違っているの？・・・考え始めたら疑問で頭が一杯です。

このセミナーでは、歯と歯周組織の立体的な構造とその防御機構について、歯間乳頭の立場から、もう一度、見直してみることで、歯肉のバリア機構とはどのようなものか？歯肉炎や歯周炎の現場ではいったい何が起きているのか？どう炎症を予防し、炎症で壊れた歯肉がどのような経過を辿って治癒していくのか？などの疑問について、臨床的なマクロの視点と、病理組織学的なミクロの視点から、立体的に考えていきます。